

U.S. Indicators

発表日: 2023年10月25日(水)

米国 10月のPMIは民間部門の小幅加速を示す

～製造業が50を回復、サービス業は加速～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治(Tel:050-5474-7493)

23年10月のS&Pグローバル米国総合購買担当者指数(PMI)は、51.0(9月50.2)と拡大縮小の分岐点である50を8カ月連続で上回った。また、市場予想の50.0(筆者予想50.4)への低下に反して、前月比で0.8ポイント上昇し、同統計調査対象の企業活動はやや活発化したことを示した。製造業は、世界経済の減速するなか、在庫調整の進展による新規受注、生産の拡大を受け、50.0(前月49.8)と前月比0.2%ポイント上昇し、中立水準である50に回復した。また、サービス業は、50.9(前月50.1)と前月比0.8%ポイント上昇し、内外での人の移動の活発化による需要の強まりを背景に9カ月連続で拡大縮小の分岐点である50を上回った。

新規受注では、製造業が50を上回った一方、サービス業が50を下回っていることから、全体でも50を下回り、縮小を続けた。また、雇用は51.5(前月51.9)と低下し、雇用の拡大ペース鈍化を示した。需要の減速するなか、製造業が縮小を示す49.8(前月51.9)に低下したほか、サービス業が51.5(前月51.9)に小幅低下した。

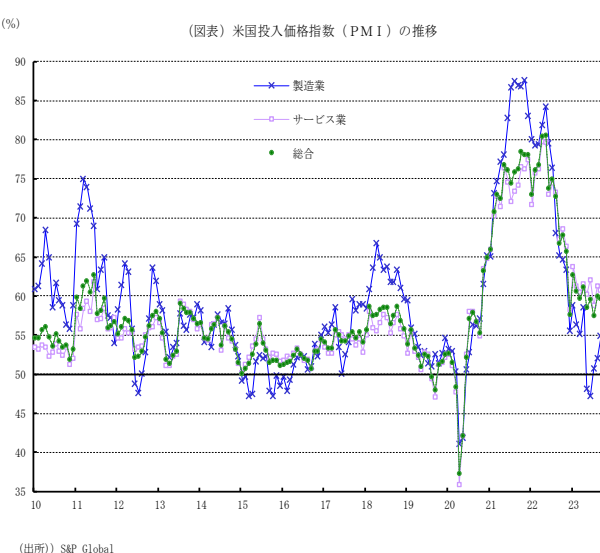
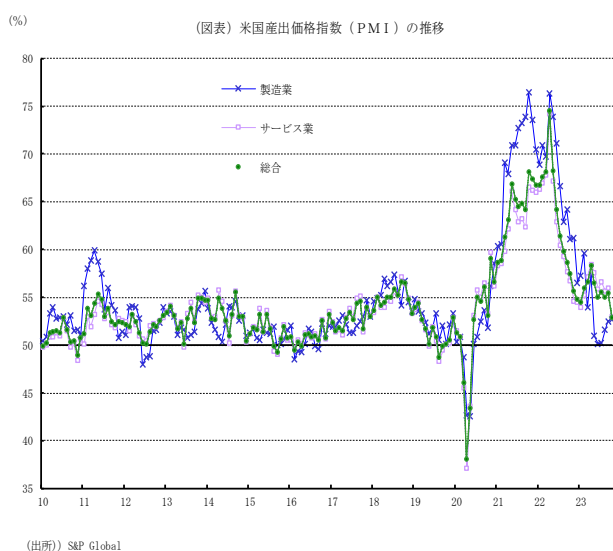
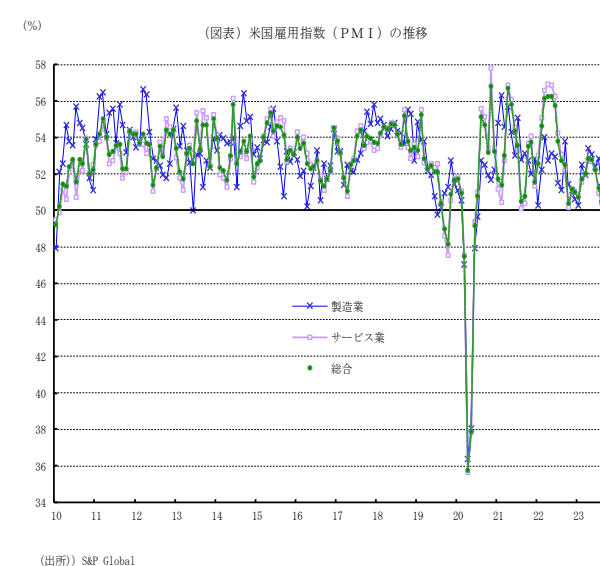
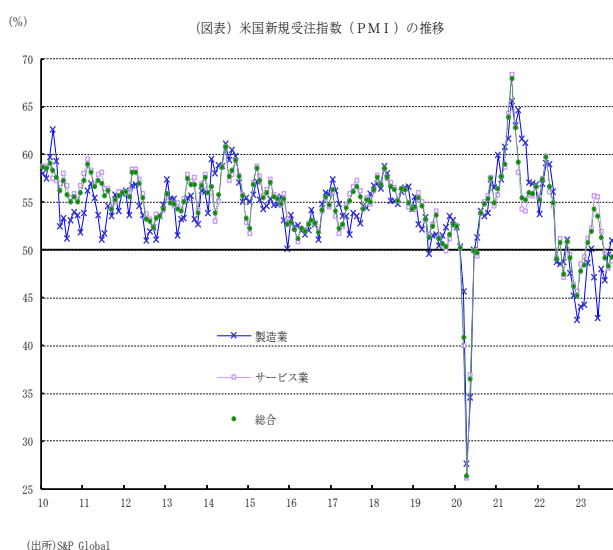
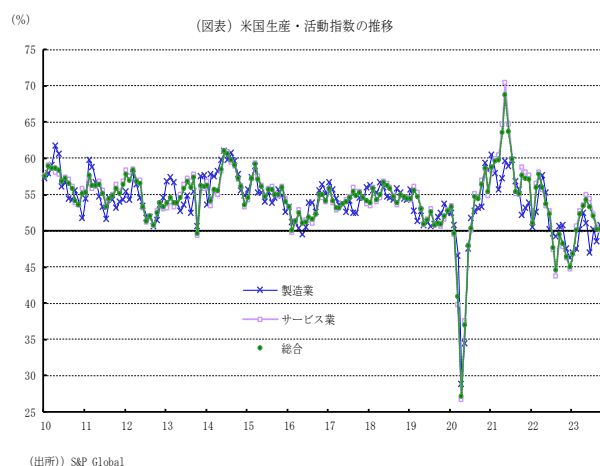
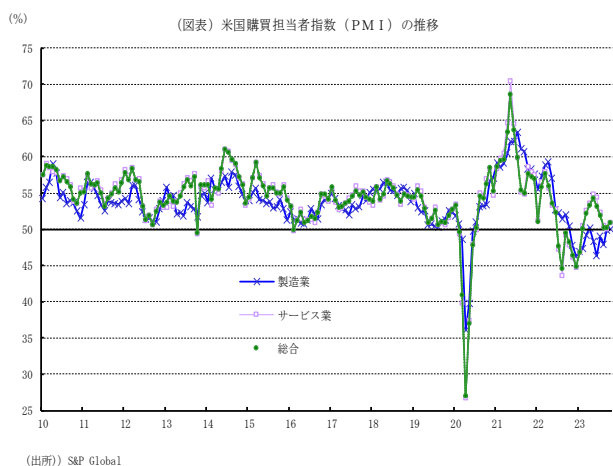
インフレ関連では、産出価格指数、投入価格指数がともに低下しており、インフレ低下の継続が示唆された。製造業では、産出価格指数が52.7(前月52.5)と上昇したほか、投入価格指数が56.6(前月54.9)と高い水準に上昇したことから、今後消費者段階で財価格の低下に歯止めがかかる可能性がある。一方、サービス業では、投入価格が56.5(前月60.8)、産出価格指数が53.0(前月56.0)と低下し、サービス価格の低下継続を示唆した。

製造業では、雇用が49.8(前月51.9)、在庫が47.0(前月47.9)と低下した一方、新規受注が51.0(前月49.5)、生産が51.1(前月50.8)と上昇した。寄与度では、雇用が前月比▲0.42%ポイント、在庫が前月比▲0.09%ポイントの押し下げ寄与となった一方、新規受注が前月比+0.47%ポイント、入荷遅延が前月比+0.10%ポイント、生産が前月比+0.08%ポイントの押し上げ寄与となった。

サービス業では、活動指数が50.9(前月50.1)と上昇した。信用状況の引き締め、金利上昇にもかかわらず、観光・余暇需要の強まり等を背景にサービス業が小幅加速した。また、新規受注が48.9(前月48.1)と50を下回ったが上昇しており、需要の縮小ペース鈍化が示された。さらに、「将来の活動指数」が69.9(前月65.5)と上昇し高い水準を維持していることから、サービス関連企業は先行きに対して楽観的な見方を続けている。

総合PMIは、10月に51.0と7-9月期の50.8から小幅上昇したが、4-6月期の53.6を下回っており、米民間需要の鈍化を示している。10月の製造業が50.0(7-9月期48.9、4-6月期48.3)と上昇した一方、サービス業は50.9と7-9月期と同水準だったが、4-6月期の54.3を大幅に下回っており、民間需要の鈍化を主導した。





本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。